

## 論文概要の和文様式

雑誌におけるタイトル: Maternal total energy, macronutrient and vitamin intakes during pregnancy associated with the offspring's birth size in the Japan Environment and Children's Study

和文タイトル: エコチル調査における妊娠期の母親のエネルギー、主要栄養素及びビタミンの摂取と児の出生時体格の関連

ユニットセンター(UC)等名: 大阪UC

サブユニットセンター(SUC)名:

発表雑誌名: British Journal of Nutrition

年: 2020 月: 9 巻: 124 頁: 558-566

筆頭著者名: Ehab S Eshak

所属UC名: 大阪UC

目的:

妊娠期の母親の食事は、胎児の発育に影響を与える可能性があります。そこで、日本人女性における妊娠中の母親の食事が出生児のサイズに及ぼす影響について検討しました。

方法:

対象者は、エコチル調査に参加した78,793組の母親と単胎児でした。母親の食事摂取量は、自記式による食事摂取頻度調査票を用いて推定され、児の出生時の情報は医師による診察記録票から得られました。母親の推定栄養素等摂取量は、日本人のための食事摂取基準(DRI)と比較するとともに、エネルギー及び栄養素毎に摂取量を四分位に分類し、児の出生時の体格を比較しました。

結果:

妊娠中期の母親のエネルギー、主要栄養素(たんぱく質、脂質、炭水化物)及びビタミン類の摂取量は、DRIより低かったです。エネルギー摂取量は、児の出生体重と正の関連を示しました。炭水化物の摂取量は、身長と正の関連がみられ、ポンドラル指数(肥満度の1つの指標)と負の関連がみられました。食物繊維の摂取量は、最高四分位群は最低四分位群と比較して、体重、身長、頭囲が大きかったです。また、複数のビタミン摂取量でも、出生時の体格が異なっていました。

考察:(研究の限界を含める)

本研究では、日本における妊娠期の食事は、DRIより摂取量が少ないという結果が得られました。これらは、日本人女性における妊娠中の厳格な体重管理や瘦身の維持によるものかもしれません。また、妊娠中のエネルギー及び複数の栄養素の摂取量は、児の出生時体格との関連を認めました。これまでの研究では、その関連の有無は物議を醸しています。さらに、本研究の結果は、絶対値の差に対する臨床的意義、同一食材による多重共線性、妊娠中の食事の変化の可能性等が考えられるため、留意する必要があります。

結論:

母親の妊娠中のエネルギー、炭水化物、食物繊維及びビタミン類の摂取量は、児の出生時体格と関連していました。